

たまにだが、考えることがある。結局、どこのラーメンがおいしいのか。どこが一番なのか。これとラーメンに関しては、様々なランキングがある。その結果に納得がいく場合もあれば、そうでないこともある。とどのつまりは、その人の好みの問題であろう。しょうゆか味噌か、塩かという問題もある。つけ麺をどうするかということもある。どのジャンルでも、ある一定のレベルまでは絞ることはできる。そこから1位を決めるのは、人それぞれであろう。

あくまでも自分の中での話だが、白河ラーメンの1位は決まっている。塩ラーメンの1位も動かない。それは、喜多方ラーメンにおける塩部門1位でもある。以前から困っているのは、喜多方のしょうゆ部門である。さゆり食堂、まこと食堂など、閉店してしまったお店もある。10店ぐらいならば絞ることができる。だが、そこから5店にするとなるとむずかしい。ずっと悩んでいる。

喜多方ではなく、エリアを会津、あるいは県内とすると、一気に問題は解決する。しょうゆ部門1位は、古川農園である。お店の名前がピンとこない方もいるだろう。美味しいラーメン屋さんの中には、元牛乳屋さん、元八百屋さんなど、異業種からラーメン店を始め、有名店にまで上り詰めたお店が少なくはない。牛乳屋食堂では、今でも牛乳が出てくる。古川農園では、以前はその雰囲気を残すかのように、お店の一角で野菜が売られていた。今では野菜の姿はなくなってしまったが、店名はそのままである。

古川農園が喜多方にあれば、何も問題はない。喜多方ではないが故に、喜多方のしょうゆ部門1位が決まらない。外から見ると、古川農園ほど商売氣のないお店はない。営業開始は午前11時、午後13時前には閉まってしまう。開店しても、お店のシャッターは必要最小限しか開けない。人が並んでいなければ開店しているかもわからない。かろうじて赤い暖簾が出ているため、ああやっているのかとわかる。お店の看板もない。したがって、外見ではラーメン店とはわからないだろう。決して、やる気がないわけではない。いついっても、美味しいラーメンが出てくる。働く女性スタッフも明るく元気である。

こういったお店は回転がいい。食べ終わると、お客さんはすぐに帰っていく。まるで、長居をしないのが、このお店の流儀だとわかっているようである。それはそうである。わずか2時間足らずの営業時間である。回転がよくなければ困る。

このお店には、通常の週末であれば、10時45分までに着けばよい。そうすれば、ワンサイクルめに入ることができる。だが、お盆などは要注意である。10時30分までには行ったほうがよい。かなり並ぶ。きっと、このお店のことを知らない人は、なんで看板もなく、シャッターも開いていない建物に人があんなに並んでいるのだろうと思うはずである。

これが、古川農園である。ラーメンを食べたくなる。ちょっと遠出もしたくなる。どこにするか悩む。そんなときは、古川農園がよい。決して後悔することはない。必ず満足感と幸せな気分を得ることができる。